

なし く ほ にし がい と ごう だ かい ど
梨久保・西垣外・郷田・海戸遺跡

発掘調査報告書

(概 報)

平成 8 年度 榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書



長野県岡谷市教育委員会

序

平成8年度榎垣外遺跡ほか、岡谷市内遺跡の発掘調査及び試掘・確認発掘調査の報告書（概報）を刊行することになりました。

岡谷市内には縄文時代をはじめ弥生、奈良、平安時代など、多くの遺跡が確認されております。個人住宅建設や店舗建設による遺跡内での土木工事においては、本年度も文化財保護法に基づく届け出が多数なされ、これらにつきまして試掘調査などの対応を行い、記録保存をすることができました。

今年度の調査では梨久保遺跡から縄文時代の小竪穴群が発見され、西垣外遺跡からは平安時代住居跡が重なって発見されました。郷田遺跡では平安時代の住居跡が発見され、これまで詳細が不明であった遺跡の一部が明らかになり、貴重な文化財が発見されました。

埋蔵文化財は祖先の発展の過程を知る貴重な情報であり、私達の共有の遺産であります。個人住宅などの狭い面積の開発であっても、毎年調査を継続して行き資料を蓄積することにより、やがて遺跡全体の性格を把握し、岡谷市の原始・古代の生活の様子を窺い知ることができるでしょう。

今後、この報告書が学術文化の向上に活用されることを願っております。

今年度の調査にあたり、土地所有者各位、工事関係者の方々、そして調査地に隣接した多くの皆様のご好意、ご協力にお礼申し上げます。また、発掘調査に携わっていただいた皆さんには炎暑、厳寒の中をご苦勞いただき感謝申し上げます。

平成9年3月19日

岡谷市教育委員会

教育長 齋藤 保人

例 言

1. 本報告書は、平成8年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査、詳細分布調査及び試掘・確認発掘調査の報告書（概報）である。
2. 調査は、国および県から補助金交付を受けた岡谷市教育委員会が、平成8年4月15日から平成9年3月19日にかけて実施した。整理作業は主に12月～3月に行ったが十分な整理が終了していないため概要の掲載にとどめてある。
3. 出土遺物、記録図面、写真などの資料は岡谷市教育委員会が保管している。
4. 本報告書中の原稿執筆は梨久保・海戸遺跡を佐藤美枝子、郷田・西垣外・榎垣外・天王垣外遺跡を林賢が行い、全体の編集・作図は事務局で行った。

目 次

序

例 言 目 次

1. 平成8年度発掘調査及び試掘・確認発掘調査の概要	1
2. 梨久保遺跡	3
3. 西垣外遺跡	7
4. 郷田遺跡	10
5. 海戸遺跡	11
6. 遺構の発見された試掘・確認発掘調査	14

1. 平成8年度発掘調査及び試掘・確認発掘調査の概要

本年度、岡谷市内で周知の遺跡において農地転用、公共事業などの開発行為が計画・実施され市教育委員会が何らかの対応をした件数は40件をこえた。試掘・確認調査は30件、さらに発掘調査に及んだものは、3件3遺跡である。また、近年開発が予想される海戸遺跡では遺構の保存状態を探るための詳細分布調査を行った。

梨久保遺跡では縄文時代中期初頭の小さな穴群が発見され、これまでに住居跡が発見されていた常規寺沢西岸とは性格の異なる遺構が存在することがわかり、集落の構成を知るうえで貴重な成果を得ることができた。

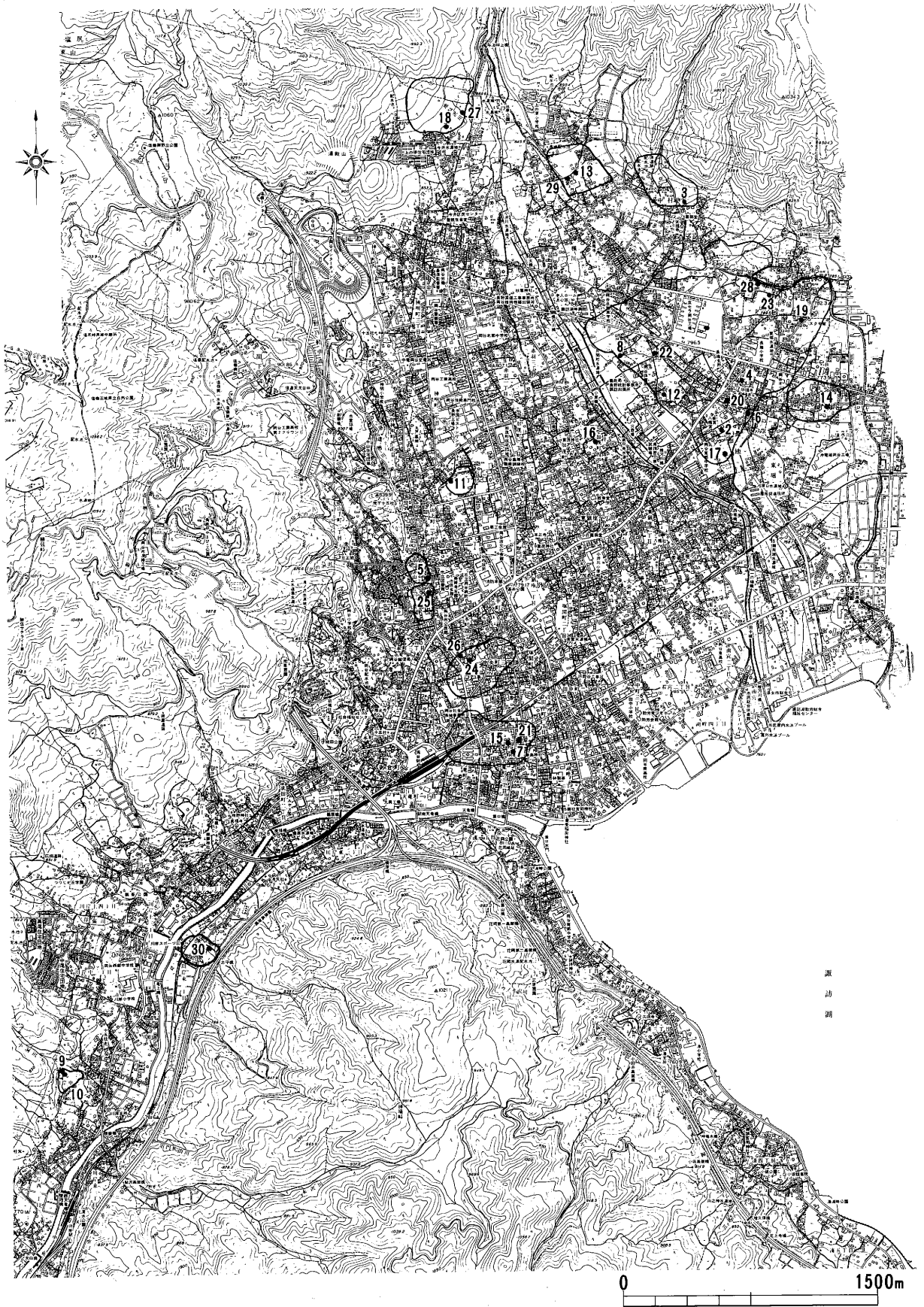
西垣外遺跡は天竜川西岸にある扇状地で、これまで住居跡などの遺構の発見のない遺跡であった。今回の調査により平安時代の住居跡が発見され、遺跡の一部ではあるがその性格を知ることができた。

郷田遺跡もやはりこれまでの調査では遺構の発見はなく、採集された遺物から平安時代の遺跡であろうと推測されていた。今回の調査により遺跡は南向きの緩斜面に位置しており、畑の耕作による影響を受けながらも遺構が残されていることがわかった。これまで遺構の発見はなく、遺跡の時代などを示す明確な資料に欠けていたが、これによって平安時代の集落の存在を明らかにすることができた。

海戸遺跡周辺は既に市街地となっているが、付近で現在再開発事業が行われているため、今後海戸遺跡内においても開発事業が行われる恐れがある。しかし昭和42年以来発掘調査がほとんど行われておらず、遺跡の保存状態などの現状が把握されていない。このため詳細分布調査を行い縄文時代から平安時代までの遺構が濃密に存在し、良好な状態で残されていることがわかった。

調査期間	遺跡名	所在地	調査の原因	主な遺構	遺構・遺物の時代	
1	4.15～9.12	榎垣外	長地字金山東2835	工事建設	平安	発掘調査
2	4.23～4.24	榎垣外 (八幡社朱引外)	長地字八幡社朱引外3470-20	住宅建設	平安	
3	4.24～5.10	梨久保 (山の神下)	長地字山の神下4443-1	住宅建設	縄文	
4	4.25～4.26	榎垣外 (鎮守東)	長地字鎮守東2981-5外	店舗建設	平安	発掘調査
5	4.30～5.2	禪海塚	山下町一丁目14-26	店舗建設	平安	
6	5.14～5.15	榎垣外 (中町)	長地字中町3509-2	駐車場建設	平安	発掘調査
7	5.15～5.16	海戸	天竜町三丁目3-12	住宅建設	縄文	
8	5.15～6.14	榎垣外 (下片間町)	長地字下片間町2376-4	住宅建設	平安	発掘調査
9	5.23～5.29	西垣外	川岸中三丁目3227-4外	住宅建設	平安	
10	5.23～6.17	西垣外	川岸中三丁目3227-3外	住宅建設	平安	発掘調査
11	6.13～6.14	郷田	郷田二丁目486-3	住宅建設	平安	
12	7.24～7.25	榎垣外 (林垣外)	長地字林垣外2306-4外	住宅建設	平安	発掘調査
13	9.2～9.4	上屋敷	長地字溝口5209-1	住宅建設	縄文	
14	9.5～9.6	東町田中	長地484-4	住宅建設	弥生	縄文・縄文
15	9.5～12.18	海戸	天竜町5338-3	詳細分布調査	古墳・縄文	
16	10.1～10.23	宗平寺	加茂町4-5	宅地造成	平安	発掘調査
17	11.8～11.11	榎垣外 (宮下)	長地字宮下1723-5	住宅建設	平安	
18	11.12～11.15	地獄沢	字上ノ原216-5外	宅地造成	縄文	発掘調査
19	11.14	榎垣外 (小田野汐上)	長地字小田野汐上3113-1	住宅建設	平安	
20	11.15	榎垣外 (中町)	長地字中町3481-1	共同住宅建設	平安	発掘調査
21	11.15	海戸	天竜町三丁目7-9	住宅建設	縄文	
22	11.18～11.19	榎垣外 (上村)	長地字上村3409-1	住宅建設	平安	発掘調査
23	11.21	榎垣外 (榎海戸)	長地字榎海戸4008-2外	共同住宅建設	縄文	
24	11.22～11.25	天王垣外	本町四丁目4927-3	工場建設	弥生	発掘調査
25	11.26～12.6	間下丸山	山下町一丁目2733-1	県道拡幅工事	平安	
26	12.10	天王垣外	本町四丁目4923-1	店舗建設	平安	発掘調査
27	1.8～1.20	地獄沢	長地字夫婦石6112外	宅地造成	縄文	
28	1.16～1.20	榎垣外 (榎海戸)	長地字榎海戸4067-1	住宅建設	平安	発掘調査
29	1.20	上屋敷	長地字下阿弥陀堂5203-1	住宅建設	縄文	
30	2.17～	志平	川岸東二丁目9866-1	住宅建設	縄文	

第1表 平成8年度試掘・確認発掘調査一覧表



第1図 試掘・確認発掘調査地点 (番号は第1表の一覧に同じ)

2. 梨久保遺跡

発掘調査の場所 岡谷市長地字山の神下4443-1

発掘調査の期間 平成8年4月24日～5月10日

調査の原因 住宅建設

調査面積 61.7m²

発見された遺構 小竪穴22基

発見された遺物 縄文時代中期初頭土器3

石鏃3 石匙1 石錐2 凹

石3 磨石2

土錘1 打製石斧6 磨製石

斧2 穀摺石1

石製装身具1 土器片・石片

2箱

梨久保遺跡は、諏訪湖へ流れ込む常現寺沢によって形成された南に面した扇状地上に位置する。縄文時代早期から後期の集落跡を主体とし、また縄文時代中期初頭を代表する「梨久保式土器」の標式遺跡でもあり、昭和59年国の史跡に指定されている。

今回調査対象となったのは、常現寺沢の左岸で遺跡の南端にあたる場所である。調査に先立ち、調査対象地内に3カ所のトレンチを設定して、遺物の出土状況と土層の観察を行った。土層の堆積は、北側で地表面から地山までの深さは30cmと比較的浅いが、南側になると地山は深く落ち込んでいる。周囲の地形も、南側で深く落ち込んでいることを勘案してみると、縄文集落の立地する南端部分にあたるのがわかる。遺物の出土状況も、北側では地山直上の黒色土層から出土しているが、南側は水田造成時の盛土に含まれているのみであった。以上のことから、調査の範囲を北側に限定した。

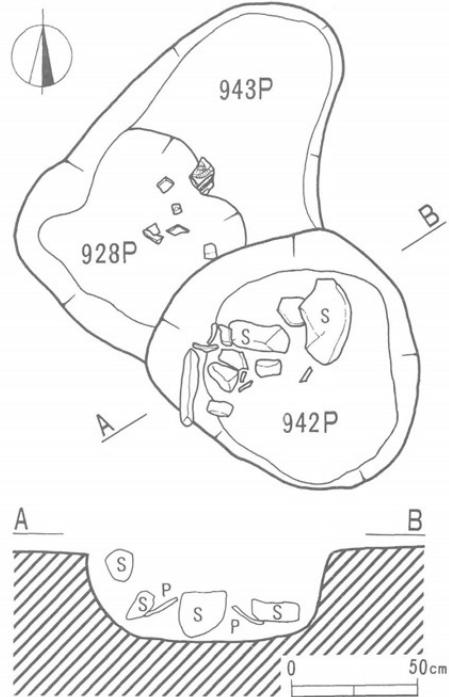
発見された遺構は小竪穴のみであり、遺物を伴うものが少なかった。その中で縄文時代中期



第2図 調査区全景



第3図 942P 遺物出土状態



第4図 928・942・943P 平・断面図 (1:30)

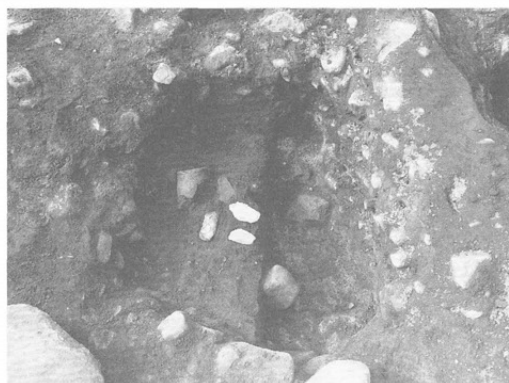
初頭の復原可能な土器が出土した小竪穴を取りあげてみる。

928P 調査区の北側で発見された。遺構検出の時点では、楕円形の単独の小竪穴と思われたが、掘り進めていくうちに、南東部分と北東部分にも黒色土の落ち込みが広がり、3基の小竪穴の重複であることがわかった。新旧関係は覆土の観察状態から、943P→928P→942Pの順で新しくなることが考えられる。覆土は黒色土で径5cm大の礫を含んでおり、深さは中央部で20cmあった。出土遺物は土器片が検出面で確認されている。口縁部から胴部にかけて約3分の1個体となる。文様は中期初頭の特徴をよく表わしているもので、口縁部に縄文を施し、胴部は縄文を施した縦の隆帯で文様を区画している。隆帯の間には斜行格子目文が施され、縄文地文である。

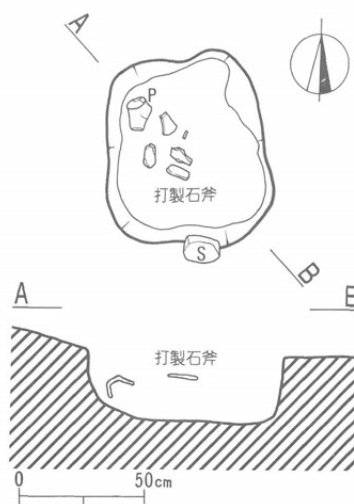
940P 調査区南西部で発見された。南北80cm×東西60cmの平面が不整楕円形で、深さは30cmある。黒色の覆土中から土器底部の破片が出土したが、非常にもろく、残存部分は底から8cmであった。底が張り出す器形で、下まで縄文が施されている。縄文の文様ははっきりしないが、おそらく中期初頭に位置づけられようか。この土器とほぼ同じ場所から、打製石斧2点がまとまって出土している。

942P 先に記述したが、ピットの北西部分が928Pと切り合っている。平面は不整楕円形で、深さは中央部で約30cmあった。覆土中の径10~15cmくらいの礫の間から、ほぼ1個体分となる土器が出土した。口縁部は一単位の渦巻状突起をもち、沈線による格子目を施している。胴部は全面に縄文を施し、上部には沈線による二重の楕円文がある。

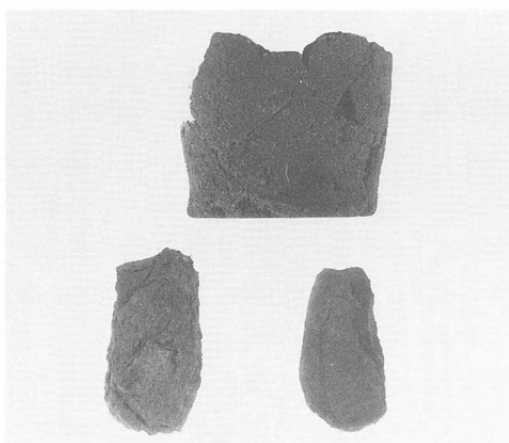
935P 調査区西側中央部で発見された。平



第5図 940P 遺物出土状態



第6図 940P 平・断面図 (1:30)

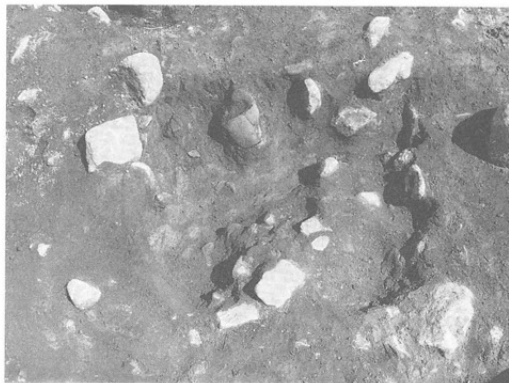


第7図 940P 出土の打製石斧と土器

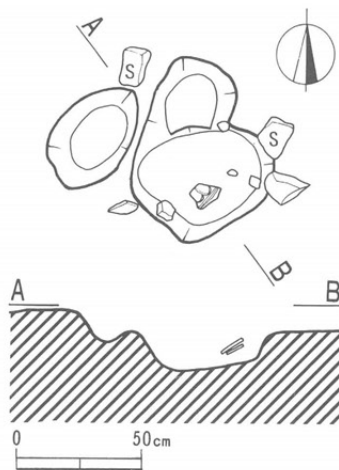
面不整形で深さは10cmと浅い。出土した土器は口縁部と胴部の破片で、復原はできないが同一個体である。

上記以外の小竪穴については、人為的に入れられたと思われる礫を伴う933P・945Pがあるが、ほとんどが黒色土一層の覆土で、出土する遺物も土器や黒耀石の小破片のみであった。小破片ではあるが土器の文様をみると、半截竹管状工具による沈線や胴部の縄文に結節縄文が多くみられるなど、中期初頭の特徴をもつものが多数をしめていて、今回発掘された小竪穴群は縄文中期初頭にあたると考えられる。

梨久保遺跡全体の中では、平成元年度に今回の調査区東側隣地の調査を行った時にも小竪穴が発見されていることなどから、集落の南端は住居跡群ではなく、小竪穴群が位置すると考えられるが、詳細は今後の周辺地域の調査結果を待ちたい。



第8図 935P 遺物出土状態



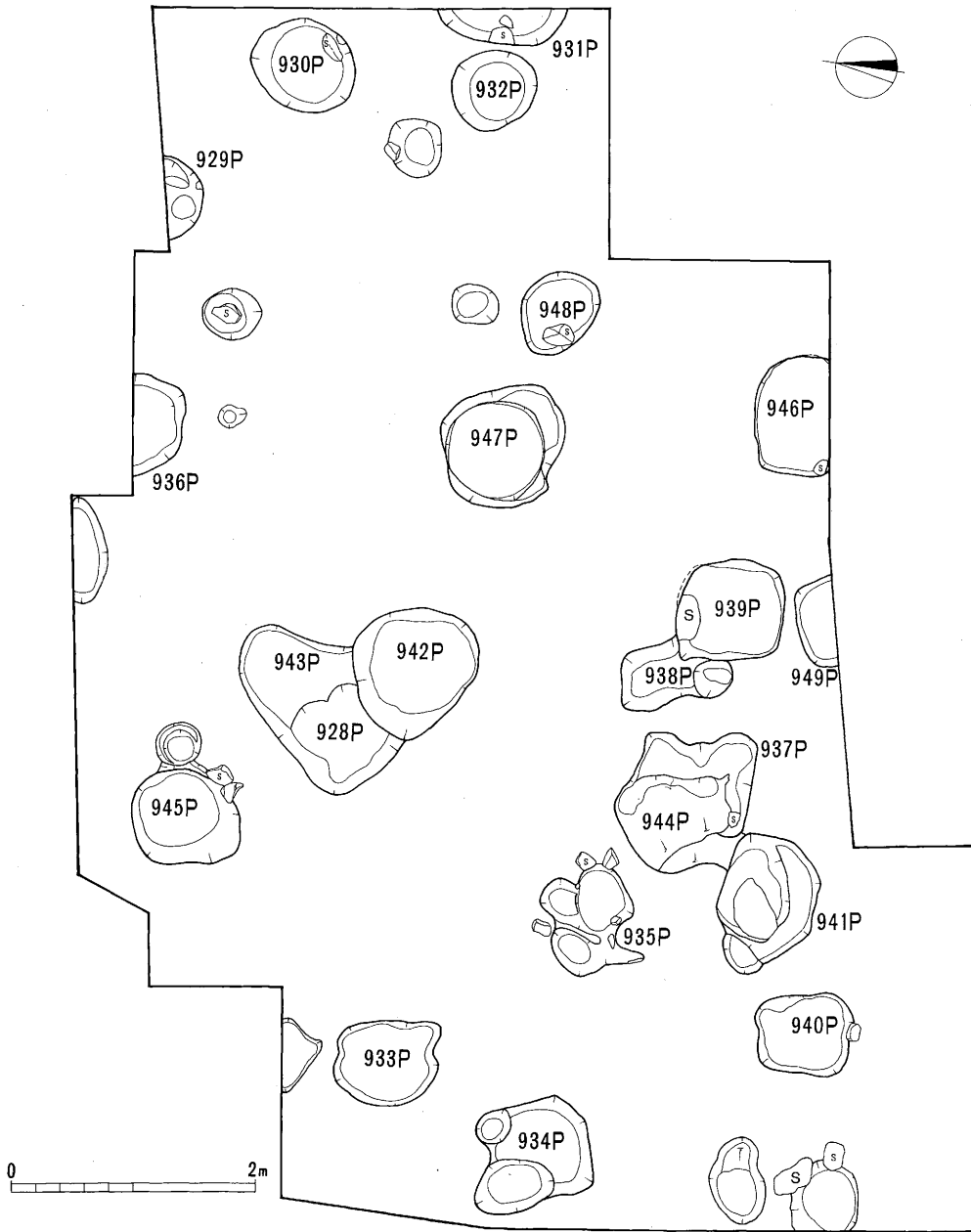
第9図 935P 平・断面図 (1:30)



第10図 942P 出土土器



第11図 928P 出土土器



第12図 梨久保遺跡遺構全体図 (1 : 60)

3. 西垣外遺跡

発掘調査の場所 岡谷市川岸中三丁目3227-3外
発掘調査の期間 平成8年5月23日～6月17日
調査の原因 住宅建設
調査面積 68.4m²
発見された遺構 平安時代住居跡2棟
発見された遺物 土師器坏18 土師器甕2
石製品1 土器片・石片3箱

今回調査された西垣外遺跡は、塩嶺山塊から突出した扇状地上にあり、北西から南東に向かった緩傾斜面に位置している。東側には深い沢筋がある。

調査地南半分には7カ所のトレンチを調査したが、遺物は少なく遺構も発見されなかった。北半分は6カ所のトレンチを設定して調査したところ、4カ所で土師器片などが多数出土したため住居跡の覆土であると判断され、表土剥ぎを行った。遺構確認面までの深さは傾斜の上側で約20cm、傾斜の下側では50cmほどである。遺構は小さな住居跡の上に大きな住居跡が重複していた。

1号住居跡 本址は2号住居跡より一回り大きく、東西5.6m×南北推定5.5mの平面方形の住居である。

壁は地山の傾斜のため、西から東壁が15～25cm地山の褐色土層を掘り込んでいるが、南壁は畑の耕作の攪乱により発見されなかった。壁際には幅10～15cm、深さ10cmほどの溝が西、北、東と廻る。西壁、北壁に沿う周溝には小穴が見られる。床はやや南に向かって傾斜し堅いタタキ面が認められる。また、重複する2号住居跡覆土部分は貼床され、やや窪んでいる。カマドは構築材、火床面などが発見されなかったためその位置は不明である。1号住居跡の柱穴は不明確である。

出土遺物は畑の耕作の影響もあり、住居跡南側からはほとんど出土せず、残存の良い北壁際から土師器片、須恵器片が出土しただけである。

2号住居跡 本址は1号住居跡の床面を精査の際確認された。平面形は一辺約5mの方形で、床面は1号住居跡の床面より5～10cm低く、やや南側に向かって傾斜している。カマドは畑の耕作のため明確な壁を発見することはできなかった。住居南側にカマドの構築材が発見され、精査の結果、残存状態の悪いカマドの袖石4個と構築材を確認した。崩落した構築材を取り去ると、厚さ15cmほどに赤く焼けた火床面が残っていたことから、長期間カマドが使用されていたことが



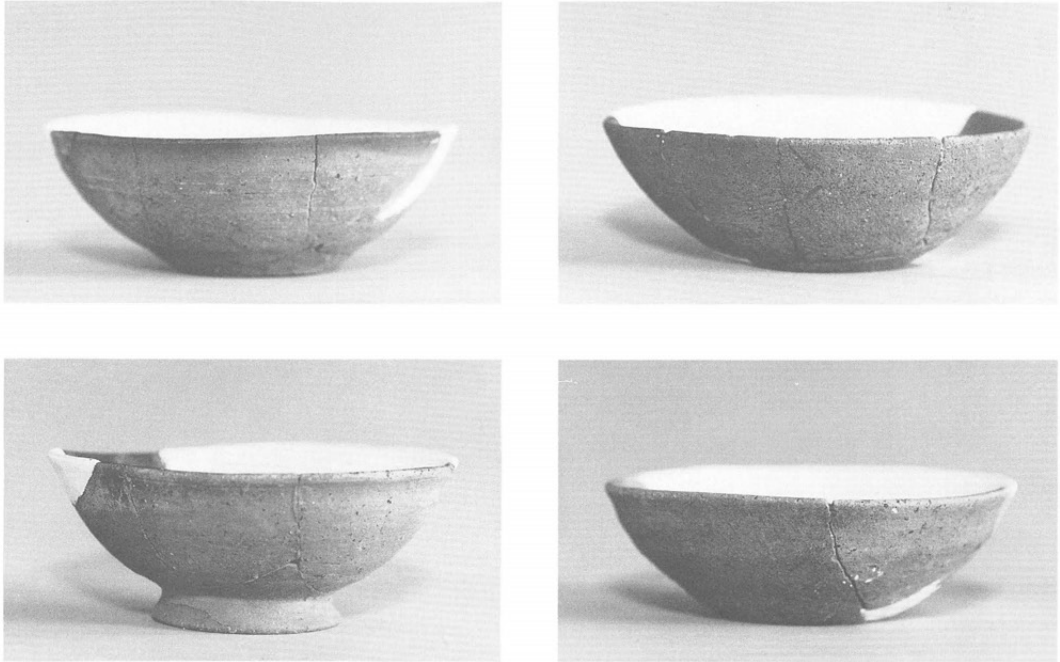
第13図 1・2号住居跡



第14図 2号住居跡遺跡物出土状態

面を1号住居跡床のタタキ面から貼床が続いているのを確認しているため、1・2号住居跡の新旧関係は、1号住居跡が新しい住居であることは間違いない。

川岸地区の遺跡は塩嶺山塊から流れ出た沢筋に縄文時代から平安時代まで断続的に集落が営まれており、西垣外遺跡もその様な成立過程が見られる点で今後の調査が期待される。



第16図 2号住居跡出土土師器



第17図 2号住居跡遺物出土状態 (1:40)

4. 郷田遺跡

発掘調査の場所 岡谷市郷田二丁目486-3

発掘調査の期間 平成8年6月13日～6月14日

調査の原因 住宅建設

調査面積 22.9m²

発見された遺構 平安時代住居跡1棟

発見された遺物 土師器坏1 甕1
土器片・石片1箱

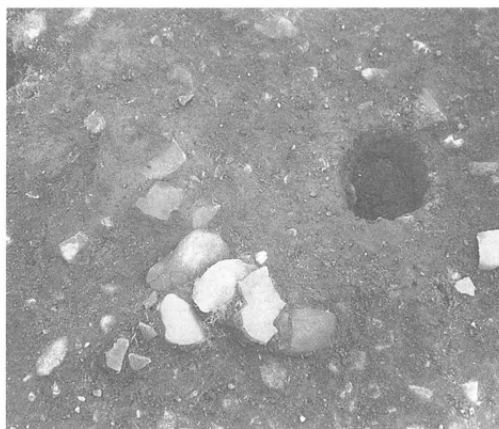
郷田遺跡は間下地区から塚間川に至る東向きの緩傾斜に遺物の散布が見られるため遺跡地とされていたが、これまで遺構が発見された例がなく、今回初めて住居跡が発見された。調査地の3カ所のトレンチのうち、緩斜面の上方に設定したトレンチから遺物が発見され、拡張、調査の結果、平安時代住居跡を発見した。

約30cmの耕作土の下は、礫を含む褐色土層の地山となっている。この褐色土層を15cmほど掘り下げて住居跡の壁が西・北・東辺に検出されたが、南壁は地山の傾斜のため確認できなかった。壁下には、幅20cm、深さ10～15cmの周溝が作られている。平面形は一辺2.5mの方形で、極めて小型の住居跡である。床面は南に向かいやや傾斜しており、部分的にタタキ面が残るが、全体的に地山の小石などが露出している。柱穴はカマドの両側と西壁際の3カ所に検出できた。カマドは東壁のほぼ中央部にやや焼けている部分があり、東カマドであることが推測されるが、袖石などは残っていない。またこの焼土周辺から土師器甕破片や坏が出土している。

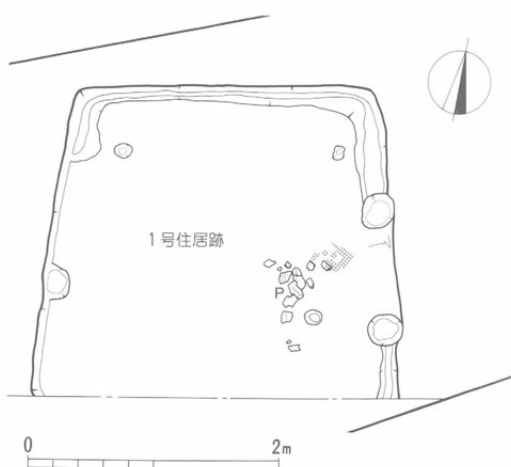
今回の調査地は郷田遺跡の南端部に位置しており、今後の調査が期待される地区である。



第18図 1号住居跡



第19図 遺物出土状態



第20図 郷田遺跡1号住居跡(1:60)

5 海戸遺跡

発掘調査の場所 岡谷市天竜町5338-3
発掘調査の期間 平成8年9月5日～12月18日
調査の目的 詳細分布調査
調査面積 155m²
発見された遺構 縄文時代住居跡2棟 古墳時代住居跡1棟 平安時代住居跡1棟 小竪穴18基

発見された遺物 縄文時代中期後葉土器3 土師器甕2 土師器坏2 甑1 石鏃22 石匙2 石錘2 凹石25 摺石6 敲き石1 石皿4 打製石斧17 磨製石斧9 土錘1 土器片錘1 石錘6 墨書土器片1 土器片・石片25箱

今回の調査区は、昭和41・42年に行われた第1次・2次調査区の南西部に隣接している地区で、グリッドもその当時のものにあわせて設定し調査を行った。

土層をみると以前建て物があつたため、全体的に攪乱を受けていて、ローム層にまでおよぶ深い攪乱も数カ所確認されている。地表面からローム層までの深さが、南側では浅く北側に行くに従い深くなっていて、この地域が北に向かって傾斜していたことがわかる。現在は主に南側の調査が終了しているが、発見された遺構は切り合いが激しいうえに、遺構上面が攪乱を受けているため、それぞれの遺構の形を明確につかむことができないものが多かった。遺物は縄文土器から土師・灰釉陶器まで混在した多数の土器片と石片が出土している。

72号住居跡 調査区のほぼ中央に位置し、攪乱層下の黒色土層で検出した。検出面からの掘り込みは約10cmで、平面形は隅丸方形である。住居の東壁が調査区外へ伸びるが、それについては未調査である。床は貼床で東寄りに3分の2くらいの範囲で確認できた。柱穴は3本検出されており主柱穴と思われるが、その位置関係から未調査である住居跡の東側にもう1本の柱穴が想定



第21図 72号住居跡



第22図 海戸遺跡遺構配置図(1:180)

できる。カマドは北壁のほぼ中央に位置し、鉄平石を利用した石組カマドで支脚石も残存していた。構築材は東袖石の外側中央にわずかに残っている。

遺物はカマドの東側とカマド内から集中して出土した。東側では土師器の甕片・甕片と、小型の甕が甕にセットされたままの状態出土している。また、カマド内からは甕の破片や割れた坏などの多数の土師器片が出土している。

出土した遺物から、古墳時代後期に相当すると思われる。

73号住居跡 調査区の南東で貼床が発見され住居跡とした。床面のすぐ上まで攪乱を受けていたため、壁の立ち上がりは確認されなかった。出土した遺物は縄文土器から須恵器まで混在した破片ばかりであったが、土師器のしめる割合が多い。

この住居跡の時期は、土師器が多いことと貼床の下で発見された52Pから鉄製品が出土していることから、平安時代頃と考えられる。

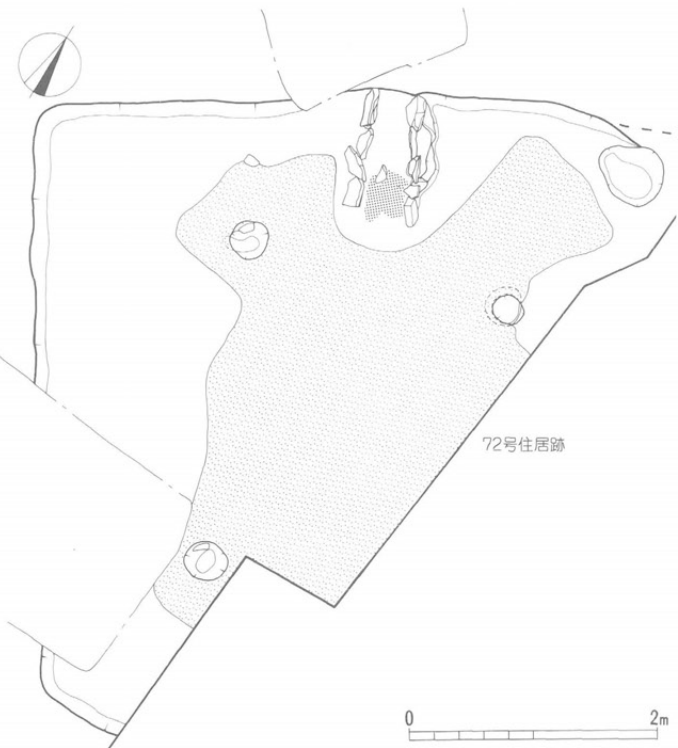
74号住居跡 調査区南西コーナーに発見された遺構で、検出面からの掘り込みは約5cm、堅く締まった床面が確認できた。南側の調査区外に延びているためわずかな面積しか調査できなかったが、床を切って68Pがあり、この68Pは縄文土器の破片しか出土していないため縄文時代と考えられることから、この住居跡も縄文時代のものと思われる。



第23図 72号住居跡遺物出土状態



第24図 72号住居跡遺物出土状態 (1:40)



第25図 72号住居跡平面図 (1:60)

75号住居跡 調査区南端で、ローム層までおよぶ攪乱を剥いだ面から、ローム上に床面があるのが発見された。東側の床面は73号住居跡の貼床と重複していてそれより10cmほど下にあり、南側では床面がなく、小竪穴66P・67Pと重複する。この66Pは出土遺物から縄文時代のものであること、覆土下層から出土する遺物が縄文土器のみであることから縄文時代の住居跡と思われる。

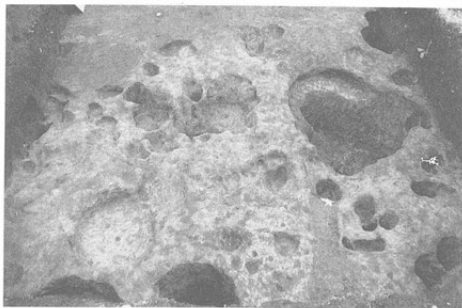
55P 調査区の西端で発見され調査区外に延びているが、推定で平面は楕円形になるとと思われる。縄文時代中期後葉に比定される土器3個体がまとまって出土している。

66P 調査区の南端、75号住居跡の床面を切って黑色土の落ち込みが発見され調査の結果、小竪穴であることがわかった。南側が調査区外に延びているが、長軸100cm×短軸80cmの楕円形の袋状のピットであることがわかった。黒色の覆土中から多量の縄文土器が出土している。

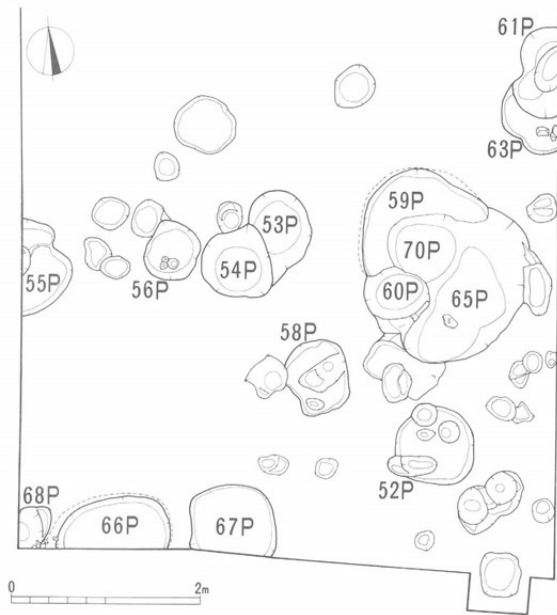
68P 前記のように、74号住居跡の床を切って掘り込まれている。調査区南壁に、径6～8cm大の礫が集中して発見され、そのすぐ横から縄文土器片が出土した。

上記以外の小竪穴は切り合っているものが多く、新旧関係をつかむのが困難であった。また深さが1mを越えるものも3基発見されている。

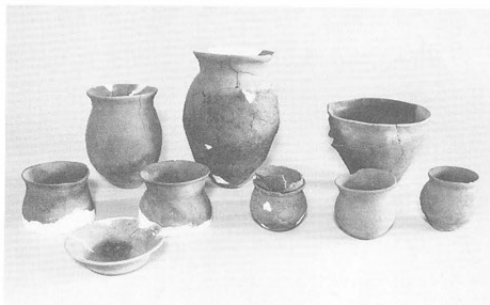
これから調査を予定している北側の調査区では、3層の生活面があることが確認されており今後の調査により多くの遺構が発見されることが予想される。



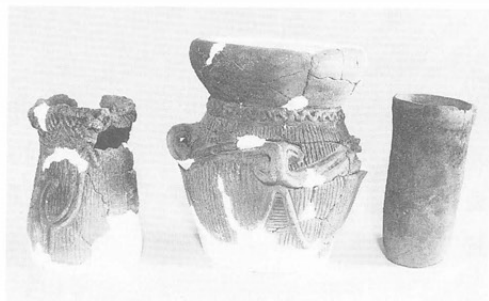
第26図 小竪穴



第27図 小竪穴平面図 (1:80)



第28図 72号住居跡出土土器



第29図 55P 出土土器

6 遺構の発見された試掘・確認発掘調査

榎垣外遺跡下片間町地籍

発掘調査の場所 岡谷市長地字下片間町2376-4

発掘調査の期間 平成8年5月15日～6月14日

調査の原因 住宅建設

調査面積 52.1m²

発見された遺構 平安時代居住跡2棟
小竪穴3基

発見された遺物 灰釉陶器壺1 刃子1
銅製品1 打製石斧4 土器片・石片1箱

今回の調査地は、平成4年度の調査で平安時代住居跡が発見された土地の北側に接する水田である。全体の地形は南側に緩やかに傾斜しているが、水田西側は横河川に向かって急に落ち込んでいる。

調査地にトレンチを設定し、平安時代住居跡2棟、小竪穴3基を発見した。住居跡は地表下約60cmと深いレベルから発見されたが、調査地西側の地山が急に落ち込んだところに位置しており、西向き傾斜となるところに住居を構えたことがわかった。15号住居跡からは須恵器甕大型破片が出土、16号住居跡からは灰釉陶器壺が出土している。

今回の調査は、基礎工事の関係から遺構の確認だけにとどめた。

天王垣外遺跡

発掘調査の場所 岡谷市本町四丁目4927-3

発掘調査の期間 平成8年11月22日～11月25日

調査の原因 工場建設

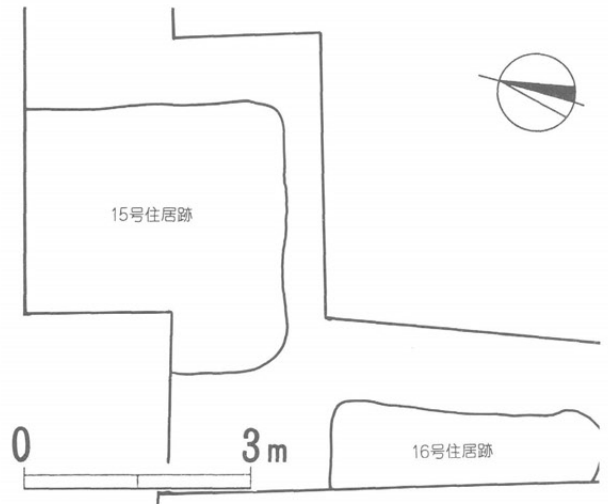
調査面積 70m²

発見された遺構 弥生時代後期住居跡1棟

発見された遺物 弥生時代後期甕1 垂飾1



第30図 住居跡検出状態



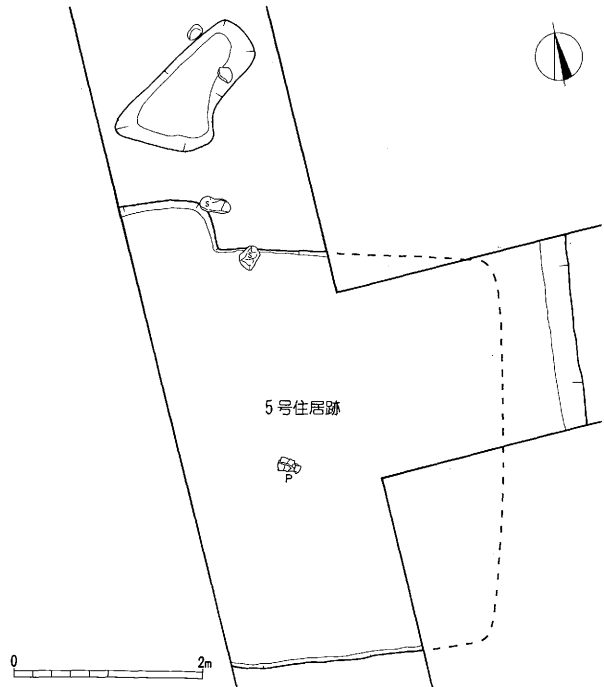
第31図 榎垣外遺跡遺構配置図(1:100)

調査地の西側に南北方向のトレンチを設定して調査した結果、住居跡の北壁と南壁と思われる立ち上がりを検出し、覆土中の出土遺物から弥生時代後期の住居跡と判断された。さらにここから直交するトレンチを設定し発掘を進めたが、東壁と思われる明確な立ち上がりを発見することはできなかった。

床面はところどころに堅い面が見られるが、これまで天王垣外遺跡で発見された同期の住居跡のような堅さはない。現地表面から床面まで80cmの深さで、褐色土層から25cm掘り下げている。

遺物は床面に貼り付いた状態で甕破片が出土したが、復原可能なものはない。覆土下層から獣骨製であると思われる有孔骨角器1点が出土したが一部を欠損している。

平成7年度の調査地からガラス製ビーズ玉や管玉が出土しており、天王垣外遺跡の特徴として注目される。



第32図 天王垣外遺跡 5号住居跡 (1:80)

天王垣外遺跡

発掘調査の場所 岡谷市本町四丁目4923-1

発掘調査の期間 平成8年12月10日

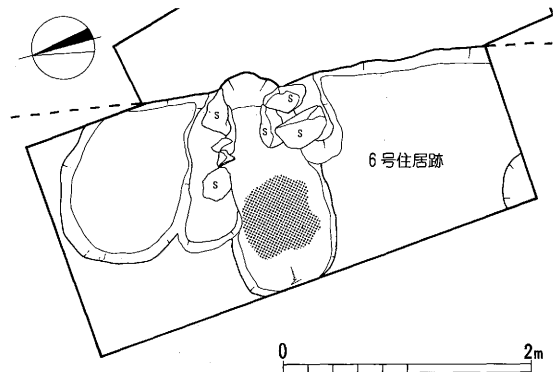
調査の原因 店舗建設

調査面積 11m²

発見された遺構 平安時代住居跡1棟

発見された遺物 須恵器坏2 土師器甕1

石鏃2 墨書土器坏1 土器片・石片1箱



第33図 天王垣外遺跡 6号住居跡 (1:60)

今回の調査地は天王垣外遺跡の北西の辺り、遺跡の範囲の境に位置する。調査地にトレンチを設定し調査を行った結果、平安時代と思われる住居跡のカマドを発見した。調査区内で確認できた平面形から東壁に作られたカマドで、焚口の幅は80cm、奥行は140cm、火床面の厚さは約10cmである。煙道は確認されていない。カマドの両袖はかなり壊れて構築材が散乱し、袖石も抜かれていた。カマドの北側に径100cmの小竪穴があるが、水甕の埋設跡とも考えられる。

報 告 書 抄 録

ふりがな	なしくぼ にしがいと ごうだ かいど							
書 名	梨久保・西垣外・郷田・海戸遺跡発掘調査報告書 (概報)							
副 書 名	平成8年度 榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書							
巻 次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編 著 者 名	長野県岡谷市教育委員会							
編 集 機 関	長野県岡谷市教育委員会							
所 在 地	〒394 長野県岡谷市幸町8-1 TEL 0266-23-4811							
発行年月日	西暦 1997年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
なし 梨久保	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 おまち 長地	20204	123	36度 5分 0秒	138度 3分 56秒	19960424 ～ 19960510	61.7	住宅建設
にし 西垣外	おかやしかわがし 岡谷市川岸	20204	168	36度 2分 16秒	138度 1分 29秒	19960523 ～ 19960617	68.4	住宅建設
ごう 郷田	おかやしごうだ 岡谷市郷田	20204	155	36度 4分 8秒	138度 3分 1秒	19960613 ～ 19960614	22.9	住宅建設
かい 海戸	おかやしてんりゅうちょう 岡谷市天竜町	20204	75	36度 3分 18秒	138度 3分 11秒	19960905 ～ 19961218	155.0	詳細分布調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
梨久保	集 落	縄 文	小 豎 穴22基		縄文土器 1			
西垣外	集 落	平 安	豎穴住居 2棟		土師器坏10・甕15			
郷 田	集 落	平 安	豎穴住居 1棟		土師器甕 2			
海 戸	集 落	縄 文	豎穴住居 4棟		縄文土器 3			